④鏡王女（かがみのおおきみ）の歌碑

この歌碑(かひ)は、舒明天皇綾（じょめいてんのうりょう）の東側、細い道を登って行くと静かに流れるせせらぎの横にあります。鏡王女は、中臣鎌足の妻、額田王（ぬかたのおおきみ）の姉（あね）と言われる飛鳥時代（あすかじだい）の歌人（かじん）です。

歌碑には、「秋山之　樹下隠　逝水乃　吾許曽益目　御念従者　（原文)」　「あきやまのこのしたがくり　ゆくみずの　われこそまさめ　みおもひよりは　（読み下し文)」と書かれています。

「秋山の木の下をかくれて流れていくほそい流れの水が、次第（しだい）に水かさがましていくように、私のあなたにたいする思いのたけは、あなた自身（じしん）の私への思いよりはまさっているのですよ。」という内容（ないよう）の歌がしるされています。